

土石流災害に対する避難のための参考となる雨量基準の見直しについて

- 2月27日の夕方から2月28日にかけての降雨により、霧島山麓周辺の観測所において、以前参考値としてお示しした三宅島の土石流の発生雨量基準時間雨量4mmを超える降雨量を観測したところです。(別紙)
- 降雨終了後、土石流により被害の発生の恐れがあるとされている35の土石流危険渓流の現地調査を行っており、いずれの渓流でも土石流による被害は確認されませんでした。
- 今回の降雨により、降灰が多く斜面勾配の大きな高千穂峰東～南の斜面において、概ね9mm以上の降雨を確認できました。
- また下流の丘陵部の土石流危険渓流を現地調査した結果、高千穂峰東～南の斜面よりも降灰が少ないことから、上流だけでなく下流の丘陵部においても同程度の雨量基準に引き上げることは可能と思われます。
- 以上のことから今回雨量基準を時間雨量10mmに引き上げることとしました。
- 今後とも、現行の基準を超える降雨が確認され、かつ現地調査により土石流による被害が確認されなかった場合には、新たな雨量基準を検討して参ります。
- さらに、渓流内に堆積している火山灰が緩やかに流出して火山灰が降雨の浸透を阻害する状況が解消されるなど、雨量以外に参考となる情報が収集できた場合はこれらも考慮し、速やかに雨量基準の引き上げを検討します。